



石川県教育支援センターやすらぎ羽咋教室通信第64号 令和4年3月発行
 〒925-0021 石川県羽咋市吉崎町ラ1番地2(羽松高校内)
 TEL・FAX 0767-22-0345
 URL <http://www.ishikawa-c.ed.jp/~ushouh/yasuragi/index.htm>

3月になった途端に、邑知瀧のコハクチョウは旅立っていきました。北陸の冬はあれこれ難儀なこともあります、折り合いをつければ、居心地の悪さもそれほど感じません。かえって春めいていくこの時期は、再起動を促されているようで、ちょっと気が重く、なんとなく憂鬱な気分になります。

ところで東京の「岩波ホール」が今年の7月で閉館するそうです。時代の波とコロナ禍で、客足が遠ざかっていったようです。世界の名画を発掘しつづけた映画館です。見終わって、外に出ると、自分がほんの少し賢くなったような気持ちにさせてくれる所でした。現在『金の糸』というジョージア映画が上映されています。旧ソ連時代に抑圧された過去を持つラナ・ゴゴベリゼという91歳の女性監督の作品です。ジョージアといえば、ウクライナと黒海を挟んで位置する国で、2008年には今のウクライナと同じような状況にあった国です。ともに厳しい歴史を共有している国、平和な日常がすべての前提にあることを実感させられます。

さてこの一年、SV、SSW、SCの先生方には、さまざまな悩みと関わっていただきました。一つひとつ丁寧に向き合う姿にたくさんの方の心を学ばせていただきました。また学校との連携も比較的スムーズに行うことができました。次年度も、子どもたちの不安、保護者の不安、学校の不安がほんの少しでも和らぐようにお手伝いできればと思っています。気になる生徒への声かけ、ご利用をお待ちしています。

教育相談状況

() 内は令和2年度

令和3年度	4月～11月	12月	1月	2月	3月	計
来所相談	65 (45)	7 (4)	6 (3)	1 (5)	8 (2)	87 (59)
出張相談	5 (17)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (18)
電話相談	75 (55)	6 (7)	3 (9)	5 (5)	7 (0)	96 (76)
計	145 (117)	13 (11)	9 (13)	6 (10)	15 (2)	188 (153)

お知らせ

- ◇ 令和4年3月25日(金)～4月7日(木)まで閉室となります。
- ◇ 次年度のSV・SSW・SC相談日につきましては、来月10日前後に「やすらぎ羽咋教室ホームページ」等でお知らせします。

「私と小鳥と鈴と（金子みすゞ）」 やすらぎ羽咋教室 室長 井上 政人

とても共感を得た金子みすゞさんの詩を紹介します。「私が両手をひろげても、/お空はちっとも飛べないが、/飛べる小鳥は私のように、/地面を速くは走れない。/私がからだをゆすっても、/きれいな音は出ないけど、/あの鳴る鈴は私のように、/たくさんな唄は知らないよ。/鈴と、小鳥と、それから私、/みんなちがって、みんないい。」 この詩のなかに出てくる、「私」と「小鳥」と「鈴」はそれぞれ異なるものです。私はこれらを、生徒さんの個性と重ねてしまいます。「みんなちがって、みんないい。」の「いい」という言葉は、「違うからこそ大切なんだね」という意味だという人もいます。

本教室には、優しい2名の相談員の方と皆さんを大切にしてくれる素敵なお友達3名のカウンセリングの専門家の方がおいでです。お話する内容は、友達のこと、家族のこと、勉強・進路・将来のこと、自分自身のことなど…。気軽に利用してください。

「登校できないということ」 やすらぎ羽咋教室 スーパーバイザー 田幡 啓子

やすらぎ教室で受ける相談の多くは、中高生の不登校に関するものです。特に高校生になると、単位取得の関係から次の進路のことも考えなくてはならないケースがあります。まだ、自分がどんな問題を抱え、どうして動けなくなっているのかわからない彼らにとっては、酷なことだと感じることもしばしばです。誤解されがちですが、学校を休んでいて楽ということはありませぬ。登校できない自分は普通ではないという思いに囚われ、自責の念に苛まれていることがほとんどです。その苦しむ姿を前にして、もっと自分のことを労わってほしいと思います。が、「こんな自分をどう大切にしていかわからない」と悩み、もがいています。

本当のところ誰にもわからない彼らの答えが、彼らの中から生まれてくるのを根気強く待つ、見守るといったことが我々大人に求められていることであり、唯一できることなのではないでしょうか。

やすらぎファームの一年

